


## 入院診療計画書② 【術後Adjuvant】CDDP＋VNR②コース目以降

患者ID: 患者ID  
患者氏名: 氏名

主治医氏名: 氏名  
担当看護師氏名: 担当看護婦

新規作成日: 新規作成日

日付	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
	入院当日・基準日 (day0)	抗癌剤投与当日・入院1日目 (day1)	入院2日目 (day2)	入院3日目 (day3)	入院4日目 (day4)
目標	入院生活になれることができる		副作用が理解でき、体調に変化があった際看護師に知らせることができる		副作用に対する対処方法がわかる
	治療の必要性や方法が理解できる		治療の予定に沿って治療を受けることができる		感染予防の必要性、具体的な対処行動がとれる
投薬	 持参されたお薬、お薬手帳を薬剤師が確認します。	 抗がん剤投与前に吐き気止めの薬を服用します。	 朝食後、吐き気止めの薬を服用します。		
注射	 腎臓の保護のための点滴を行います。(6時間)	 抗癌剤、副作用を緩和する点滴を行います。(12時間) 【ナベルピン】は血管炎予防のため腕を温めながら点滴します。	 吐き気予防、腎保護のための点滴を行います。(4.5時間)		
検査	 X線、血液検査があります。				 血液検査があります。
食事	 特に制限はありません。抗癌剤投与後、食欲が低下した時は栄養士への相談も行えます。また、医師の許可があれば持ち込み食も可能です。その際は看護師にお声かけ下さい。食欲不振があるときは、一時的に偏るような食事内容でもかまいませんので食べられるものを、できるだけ多く摂って下さい。水分はこまめに摂って下さい。少量で高カロリーの栄養補助食品もご検討下さい。				
排泄	 入院後から、尿を計量します。カップで計量後に表に記載してください。カップは所定の場所に廃棄して下さい。	 前日24時間の尿・便回数を確認します。尿量測定を継続します。排泄後はトイレの水を2回流してください。男性の方は飛沫が飛ばないように座って排泄してください。			 前日24時間の尿・便回数を確認します。尿量測定を継続します。
清潔	 熱がなければ入浴して頂いてもかまいません。	 抗癌剤投与当日は入浴できません。投与翌日以降は点滴終了後、医師の許可があれば入浴できます。入浴できない場合は、温タオルでの清拭となります。(出来ない部分は援助します。)			
安静度	 特に制限はありません。	 抗癌剤を点滴中はなるべく腕を動かさないように安静にしてください。	 点滴中は安静にお過ごし下さい。点滴終了後は、特に制限はありません。	 制限はありません。	
観察項目	 身長と体重を測定します。	 起床後に体重を測定してください。抗癌剤投与当日はじんま疹、呼吸困難、冷汗、動悸などを観察します。これらが見られた場合は投与を中断することがあります。食欲減退、悪心、吐き気・嘔吐がおこることがあります。血管炎を起こしやすい薬剤のため血管の状態を観察します。	 起床後に体重を測定してください 下記の症状を認めた場合はお知らせください ・湿疹や痒み、食欲不振、吐き気、嘔吐、しゃっくり ・抗癌剤を投与した腕に痛みや痒み、発赤などがある ・便秘、下痢	 吐き気、嘔吐、食欲不振、口内炎 ・むくみ、はれぼったい感じ(特に足や手)	
確認事項	 ネームバンドを着用します。病室、ベッド枕元に名札を掲示します。(支障のある方はお申し出下さい)入院診療計画書(この書類)をお渡しします。入院に必要な書類を提出していただきます。				入院4日目の採血で異常がなければ、当日以降に退院が可能です。退院される場合は退院日の午前中に入院費の請求書をお渡しします。支払確認後、必要書類、お薬をお渡しします。ネームバンドを除去し、退院となります。8日目、15日目の抗癌剤は外来化学療法室で行います。
リハビリ	リハビリテーションの予定はありません。				
看護ケア	 病棟・入院生活の説明を行います。入院時、午後、就眠前に検温を行います。入院前の状況に合わせて移送方法を検討します。履物は出来るだけ、スリッパではないもの、安定感のあるものをお勧めします。自宅とは異なる環境のため、安全に入院生活がおくれるようにつとめます。ベッド柵は3か所に設置します。床頭台、ベッド周囲の環境を整えます。薬剤師より抗癌剤の説明があります。入院時に薬剤師からの説明がない場合は翌日になります。	 起床時、午前、午後、就眠前に検温を行います。  抗癌剤を投与してから15分間は看護師が付き添い、アレルギー等の副作用が無いを観察します。看護師から、点滴の予定や副作用について説明します。抗癌剤投与後1週間は食欲減退、悪心、吐き気・嘔吐、しゃっくりなどが起こりやすくなります。症状に応じて緩和する薬を使用します。便秘になりやすいため、普段の排便リズムに近くなるよう緩下剤を使用します。	 抗癌剤投与後、1週間程度すると骨髄抑制が出現しやすくなります。感染症にかかりやすくなりますのでトイレ後、食事の前の石鹸手洗い、起床時、日中、就寝前のうがい、1日に2回以上の歯磨きを行ってください。外出時はマスクを着用してください。 下記のような症状が出現したら病院に電話でご連絡ください。(平日は呼吸器外科外来 夜間・休日は救急外来。) ・発熱(37.5度以上)、せき、痰、寒気、のどの痛み、排尿時の痛み、下痢(白血球減少による感染症が疑われます。) ・血が止まりにくい、あざができやすい(血小板減少が疑われます。このような症状がある場合は鼻を強くかまない、身体をぶつけたりケガをしない、排便時に強くいきまないように注意してください。) ・立ち上がった時にめまいがする、顔色が悪い、動いた時に息切れしやすい。(赤血球減少が疑われます。このような症状がある場合は医師に確認の上、できるだけ安静にしてください。) ・点滴した血管に痛み、発赤、痒み、灼熱感がある(静脈炎の疑いがあります。この場合も病院にご連絡ください。)  ※手足のしびれが生じることがあります。薬剤師からのパンフレットの対応をとっていただき、次回の診察日にご相談ください。		

※患者様の状態により内容の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください